

精神障害者の地域生活支援のためのモデル

——受け入れを拡充し偏見を軽減するアプローチ——

御 前 由 美 子*

A Model for Life Enhancement of People

with Mental Disability in the community :

Approach for Promoting Acceptance and Reducing Prejudice

Yumiko Misaki

要旨：本論文は、精神障害者の偏見を軽減するとともに地域生活における支援者を拡充するための1つのモデルを提示することを目的としている。不適切な態度や誤解は精神障害者の生活に大きく影響するため、精神障害者の地域生活を促進するためには、地域において好意的に受け入れる環境が必要である。様々な精神疾患が認識されるようになり、拒否や否定的態度は軽減されつつあるという報告もあるが、現在もなお7万人が社会的入院を余儀なくされている。精神障害者に対する拒否や否定的態度を除去するためには、正しい知識の普及と接触体験が必要だと言われてきた。しかし、精神疾患は他の病気と同じようなものであり、だれでもがかかる可能性があるという認識がない人も多いため、市民講座やイベントに参加する一般市民は少ない。そこで、従来の方法に加え、精神障害に関する知識の有無にかかわらず受容的な人へのアプローチを行うことを提案している。

Abstract : The purpose of this paper is to propose a model for reducing prejudice and increasing people to enhance the lives of persons with mental disability in the community. Misconceptions and inaccurate attitudes affect the lives of persons with mental illness and their lives depend, in a large measure, on a favorable climate of acceptance in the community. Several indicators suggest that definitions of various forms of mental illness may have broadened and that rejection and negative attitudes may have decreased, however, about 70,000 inpatients are still forced to hospitalization now. It has been said that the spread of right knowledge and contact experiences were necessary to remove rejection and negative attitudes. However, there are few people participating in lectures and events because of lack of perception that mental illness is an illness like any other and that can happen to one of "us". Therefore, it is suggested that the approach to people who would be likely to accept without knowledge about mental disorder is necessary, in addition to the conventional approach.

Key words : 精神障害者 people with mental disability 地域生活 lives in the community 偏見 prejudice 受容的な人 people who would be likely to accept アプローチ approach

*関西福祉科学大学大学院社会福祉学研究科臨床福祉学専攻 学生

I はじめに

日本における精神障害者は約 258 万人であり、入院患者の 61% が統合失調症である¹⁾。WHO によると「現在、統合失調症で長期の入院を必要とする人は少ない。あったとしても平均入院期間は 2 週間から 4 週間にすぎない」とされている²⁾にもかかわらず、日本では 2003 年の調査において 3 年以上入院している患者は 54.2% であった。そのうち、「現在の状態でも、居住先・支援が整えば退院可能」な患者について、3 年以上入院している患者は 41.6% であり、20 年以上の入院は 9.7% もあった³⁾。

精神障害者は病気の問題だけではなく、住居を貸りる際にも大家に断られること⁴⁾や、仕事や収入などの生活の様々な面で影響を受けることが多いとされている⁵⁻⁷⁾。このようなことが精神障害者の地域生活を困難し、社会的入院を余儀なくされる背景ともなっている。また、その要因には、「国民の多くの層に見られる精神疾患・精神疾患を有する人々・精神科医療への偏見」⁸⁾があるとされる。

一般住民の精神障害者に対する拒否や否定的態度は軽減されつつあるという報告⁹⁻¹¹⁾がある一方で、あまり変化がないとするもの^{12, 13)}や、逆に「暴力的」「恐ろしい」というイメージが若干増しているという報告¹⁴⁾や「身体障害者の偏見と異なり、精神障害者への偏見には根強いものがある」¹⁵⁾とするものもある。

精神障害者に対する偏見除去のために、どのような人が精神障害者に対して肯定的か、あるいは拒否的かということについて様々な属性に関する研究が行われてきた。しかし、性別¹⁶⁻¹⁹⁾、年齢^{11, 20-22)}、学歴^{11, 21, 23, 24)}、職業^{11, 18, 25)}、収入^{11, 16, 26)}というような属性に関しては、一致した結果は得られていない。

また、偏見除去のための方法としては、精神障害(者)に関する知識の普及^{18, 27)}や精神障害者との接触体験^{11, 19, 21, 28)}が有効だとされてきた。このため、地域では保健所などが中心とな

り市民講座やイベントを行い、精神障害についての知識の普及をはかってきた。また、施設や病院などは祭りやバザーを行い、接触体験の機会を提供してきた。しかし、このような催しの参加者は施設・行政関係者や当事者の家族が多く、精神障害に関する知識をもたない一般市民の参加は少ないという声をよく耳にする。

厚生労働省は、2003 年度からの 10 年間に、支援があれば地域で生活ができるにもかかわらず、受け皿がないために入院を余儀なくされている社会的入院患者(約 72000 人)の退院・社会復帰を目指すという目標を掲げた²⁹⁾。また、2004 年の「精神保健福祉の改革ビジョン」においても、10 年以内に約 7 万人の社会的入院患者の地域生活を可能にすることを目標とした³⁰⁾。しかし、その後、地域生活への移行はあまり進まず、2006 年においても 7 万人が社会的入院を余儀なくされている。そこで、厚生労働省は再び、「社会的入院状態になっている 7 万人のうち、2011 年度までの 6 年間で 5 万人を地域生活に移行してもらう」という 2006 年度からの移行計画を発表した³¹⁾。

しかし、従来行われてきたような方法だけで一般市民の偏見を軽減し、上記の目標を達成できるのだろうか。本論文では、精神障害者の地域生活を受け入れる人を拡充するとともに偏見を軽減していくための 1 つの手がかりを見つけること目的としている。このために、まず、精神障害の知識普及のために行われたイベントにおいてアンケートを実施し、参加者の実態を調査した。これをもとに精神障害者に対する受け入れを拡充するための 1 つのモデルを考えてみたいと思う。

II 精神障害に関するイベントにおける実態調査

1. 調査方法

(1) 対象者

K 大学において行われた「こころの健康と福祉を考えるつどい」の参加者を対象にアンケート調査を行った。

(2) 実施日

実施は2005年11月23日である。また、イベント終了後に出口で回収を行い、有効票数は283票である。

(3) 調査内容

内容は性別、年齢、既婚未婚、子どもの人数、イベント関係者（開催大学職員・学生、精神障害者に関わる施設・行政職員：以下、特に断らない限り関係者と略称する）か否か、地域での役割、身近に精神障害者がいるかどうか、そして、事例をもとに精神障害者に対する受け入れ意識を問う項目である。

受け入れ程度に関しては、大島ら^{18, 28, 32)}の、安定はしているが後遺症状のある統合失調症のAさんの事例をあげ「隣に単身で越してくる」場合どの程度受け入れるかを問い、「困っている時はできるだけ手を貸す」「他の人と同じような近所付き合いをする」「あまりかわらないようにする」「他の場所に住むように働きかける」「その他」を選択肢とした。

また、質問項目数は、回答者に負担のないように全12問とし、B4用紙1枚を用い、無記名自己記入式質問紙による集合調査とした。

(4) 分析方法

分析は χ^2 二乗検定またはフィッシャーの正確確率検定を用いて比較を行った。

2. 結果

(1) 属性

性別では女性が多く、男性の約2倍である。年齢は60代がもっとも多く、全体の3割近くを占めている。また、平均年齢は50.37才、標

準偏差は19.08である（表1）。

関係者は74人、身近に精神障害者がいる人は85人、このうち関係者でかつ身近に精神障害者がいる人は24人、非関係者であり身近に精神障害者がいない人は125人であった（表2）。

また、地域でなんらかの活動を行っている人は187人であり、地区福祉委員ボランティアを行っている人が多い（複数回答）（表3、表4）。

表2 関係者か否か、精神障害者が身近にいるか否か

	精神障害者が 身近にいる	精神障害者が 身近にいない	無回答	合計
関係者	24	48	2	74
非関係者	57	125	16	198
無回答	4	5	2	11
合計	85	178	20	283

表3 地域活動を行っているか否か

	人	%
地域活動を行っている	187	66.1
地域活動を行っていない	89	31.4
無回答	7	2.5
合 計	283	100.0

表4 どんな地域活動を行っているか

[複数回答]	人	%
自治会	34	18.2
民生委員	16	8.6
地区福祉委員	100	53.5
ボランティア	94	50.3
婦人会	14	7.5
その他	21	11.2
無回答	2	1.1
全 体	187	100.0

表1 性別と年齢

	10代		20代		30代		40代		50代		60代		70代		80代以上		無回答		合計	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
男	2	40.0	21	33.3	6	42.9	7	30.4	12	29.3	23	28.4	18	46.2	1	50.0	3	20.0	93	32.9
女	3	60.0	42	66.7	8	57.1	16	69.6	29	70.7	57	70.4	21	53.8	1	50.0	12	80.0	189	66.8
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	1.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.4
合計	5	100.0	63	100.0	14	100.0	23	100.0	41	100.0	81	100.0	39	100.0	2	100.0	15	100.0	283	100.0

非関係者や非地域活動者でかつ、精神障害者が身近にいない人は 20 人であった。

(2) 精神障害者に対する受け入れ意識

「あまりかかわらないようにする」と答えた人は 9 人 (3%) であった。ほとんどの人が肯定的な意識を持っており、これは予想された結果であった (表 5)。

(3) 受け入れ意識の比較

〈関係者かつ身近に精神障害者がいる人と、非関係者かつ身近に精神障害者がいない人との比較〉

関係者でかつ身近に精神障害者がいる人は 24 人あり、無回答を除くと「困っている時はできるだけ手を貸す」または「他の人と同じような近所付き合いをする」と答えた人は 22 人であり、「あまりかかわらないようにする」「他の場所に住むように働きかける」と答えた人はいなかった。

非関係者であり身近に精神障害者がいない人 125 人のうち、無回答を除くと「困っている時はできるだけ手を貸す」「他の人と同じような

近所付き合いをする」と答えた人は 114 人 (96%)、「あまりかかわらないようにする」3 人 (3%)、「その他」2 人 (2%) であり、「他の場所に住むように働きかける」と答えた人はいなかった。

「困っている時はできるだけ手を貸す」「他の人と同じような近所付き合いをする」と答えた人を肯定的、また、「あまりかかわらないようにする」「他の場所に住むように働きかける」と答えた人を否定的とし、関係者でかつ身近に精神障害者がいる人と、非関係者でかつ身近に精神障害者がいない人の受け入れ意識を比較した結果、有意差は見出されなかった (表 6)。

(4) 受け入れ程度の比較

非関係者かつ非地域活動者かつ身近に精神障害者がいない 20 人は「困っている時はできるだけ手を貸す」(20%)、「他の人と同じような近所付き合いをする」(80%) のいずれかに答えており、全員肯定的であった。また、関係者、地域活動者あるいは身近に精神障害者がいる人は「困っている時はできるだけ手を貸す」が 39%、「他の人と同じような近所付き合いをする」が 54% であり、非関係者かつ非地域活動者かつ身近に精神障害者がいない人と比較して積極的に支援しようとする意識をもつ人の割合が多い (表 7)。

そこで、非関係者かつ非地域活動者かつ身近に精神障害者がいない人と、地域活動の種別における受け入れ程度を比較した結果、自治会役員、民生委員、地区福祉委員では有意に積極的

表 5 受け入れ意識

	人	%
できるだけ手を貸す	101	35.7
他の人と同じような近所付き合い	153	54.1
あまりかかわらない	9	3.2
他の場所に住むように働きかけ	0	0.0
その他	15	5.3
無回答	5	1.8
合 計	283	100.0

表 6 受け入れ意識の比較

関係者かつ、精神障害者が身近にいる		非関係者かつ、精神障害者が身近にいない		「手を貸す」「同じつきあい」 ×「関わらない」
人	%	人	%	
手を貸す	6 27.3	49 41.2	P=0.59	
同じつきあい	16 72.7	65 54.6		
関わらない	0 0.0	3 2.5		
その他	0 0.0	2 1.7		
合計	22 100.0	119 100.0		

Fisher's test [無回答、その他を除く]

表7 受け入れ程度の比較 (1)

	非関係者かつ非地域活動者かつ身近にいない		関係者又は地域活動者又は身近にいる		「手を貸す」×「同じ付き合い」
	人	%	人	%	
手を貸す	4	20.0	89	39.2	P=0.04
同じ付き合い	16	80.0	122	53.7	
関わらない	0	0.0	6	2.6	
その他	0	0.0	10	4.4	
合計	20	100.0	227	100.0	

Fisher's test [無回答、その他を除く]

表8 受け入れ程度の比較 (2)

	非関係者かつ非地域活動者かつ身近にいない ①		自治会役員 ②		民生委員 ③		地区福祉委員 ④		ボランティア ⑤		婦人会 ⑥		「手を貸す」×「同じ付き合い」	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%		
手を貸す	4	20.0	17	56.7	10	71.4	46	50.5	32	36.8	3	25.0	①×②	P=0.01
同じ付き合い	16	80.0	12	40.0	4	28.6	43	47.3	51	58.6	9	75.0	①×③	P=0.00
関わらない	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	2.2	2	2.3	0	0.0	①×④	P=0.01
その他	0	0.0	1	3.3	0	0.0	0	0.0	2	2.3	0	0.0	①×⑤	P=0.09
合計	20	100.0	30	100.0	14	100.0	91	100.0	87	100.0	12	100.0	①×⑥	P=0.53

Fisher's test [無回答、その他を除く]

であった。しかし、ボランティア、婦人会活動を行っている人では有意差は見られなかった(表8)。

3. 考察

本調査において得られた結果は、本イベントが行われた地域に限定されるということは否定できないが、イベントに参加する人たちは精神障害者に対して肯定的であるという結果は予想できるものであった。

また、肯定的な中でも、自治会役員、民生委員、地区福祉委員が精神障害者に対して受け入れに積極的であることが示唆された。

しかし、市民講座やイベントの参加者は講座やイベントの関係者や家族が多いといわれてきたように、本イベントにおいても精神障害に関する知識を持たないであろう人は全体の7%にすぎなかった。全家連が行った全国調査¹¹⁾では

51.7%の人が「誰でも精神障害になる可能性がある」答えている。しかし、この中でイベントなどに足を運んで知識を得ようとする人は少ないといえるだろう。

今後も市民講座やイベントを継続的に行き、少しでも多くの人に参加を呼びかけていくことが大切である。

Ⅲ 精神障害者の地域生活支援のためのモデル

1. 従来の偏見除去の方法と現状

これまでの研究から偏見除去のためには、正しい知識の普及と接触体験が有効とされてきた。このため、精神保健ボランティア講座などでは、ボランティア希望者は精神障害に関する講義を受講した後、精神障害者との交流を持ち理解を深めるという方法がとられている場合が多いようである。これを表したものが図1である。

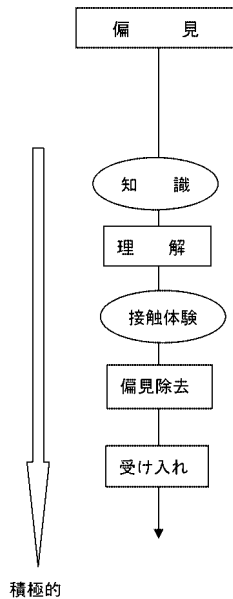


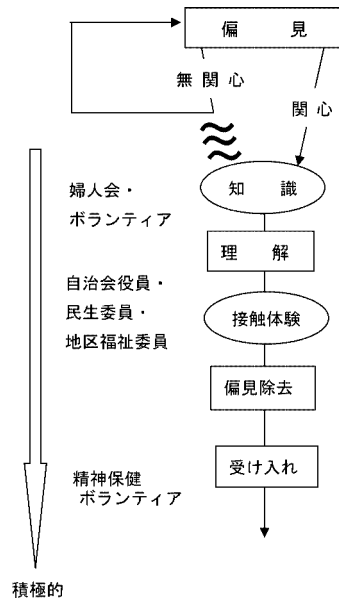
図 1 偏見除去の方法

知識を提供することで理解が得られ、接触体験によりさらに偏見が軽減され、精神障害者に対する受け入れが促進されるというように、下方向にゆくほど精神障害者の地域生活を支える積極的な支援者となる可能性が高くなることを表している。

しかし、本調査において、精神障害の知識を持っていないと考えられる人の参加は全体の 7 % にすぎなかった。これは、精神障害者の問題を身近な問題として考えることが少ない³³⁾ という指摘があるように、精神障害に対して「無関心」であることが 1 つの要因と考えられる。一般の人々の中で、市民講座やイベントなどに足を運んで知識を得ようとするほどの関心をもつ人は少なく、正しい知識を得るまでにはなかなか至らないようである。

一方、精神障害に関心をよせる人は、知識を得る機会を通じて積極的な支援をする方向に進んでいく可能性を持っている。このような現状を示したものが図 2 である。

本調査において、自治会役員、民生委員、地区福祉委員などの地域活動者は、精神障害者を



積極的に受け入れる傾向にあった。さらに、民生委員より精神保健ボランティアの方が精神障害者に対する意識が高いという報告³⁴⁾があるため、精神保健ボランティアは最も積極的な地域生活支援者であると考えられる。このようなことから、図 2 では精神保健ボランティアは自治会役員、民生委員、地区福祉委員よりも積極的な位置に配置した。

2. 精神障害者の地域生活を支援する人を拡充するためのモデル

厚生労働省は「入院医療から地域生活中心へ」という方策のためには、まず、精神疾患を自分の問題として考える人を増やし、精神障害者に対して受容的な態度に変化させる必要があるという見解を示した。そこで、「精神保健福祉の改革ビジョン」³⁰⁾では、「精神疾患は生活習慣病と同じく誰もがかかりうる病気であることについての認知度を 90 % 以上とする」ことを目標に掲げている。

しかし、イベントなどに足を運んで知識を得ようとする人が少ないことから、従来行われて

きた方法だけでは知識が普及されにくいと考えられる。また、従来行われてきたキャンペーンにおける効果では限界がある³⁵⁾という指摘もされている。

そこで、偏見を除去するためには「できるかぎり、多角的なアプローチが必要」³⁶⁾とされることから、精神障害者の場合においても従来行われている方向からのアプローチに加えて、異なる方向からのアプローチも考えてみることにした。

偏見を持つ人は知識を得なければ精神障害者を受け入れることは難しいかもしれない。しかし、「All-Weather Liberal」³⁷⁾な人や「寛容な人」³⁶⁾は元来偏見を持つことが少なく、このような人は知識が無くても精神障害者に対して受容的な可能性があるだろう。受容的な人に直接働きかけることにより精神障害者を受け入れる地域住民を増やせるのではないかと考え、1つ

のモデルとして図3に示した。

このモデルは図2の流れに、受容的な人が積極的な支援者となる可能性をもつ流れを加えたものである。この流れは、受容的な人が知識を得て理解を深め、より受容的になる可能性があり、さらに、接触体験を通してより積極的な支援者となる可能性が生まれることを期待している。積極的になることでさらに関心が高まり、一層知識を得ようとすることもあるだろうし、受容的になることもあるかもしれないという流れである。一方、偏見を持つ人の中でも、誰でも精神障害になる可能性があると考え、精神障害に関心を持つ人は従来行われてきたような方法で知識を得る機会があるだろう。そして理解をすることで、精神障害者に対する拒否的な態度は軽減されるだろう。さらに、接触体験により積極的な支援者となる可能性が生まれる。積極的になることにより、一層受容的になること

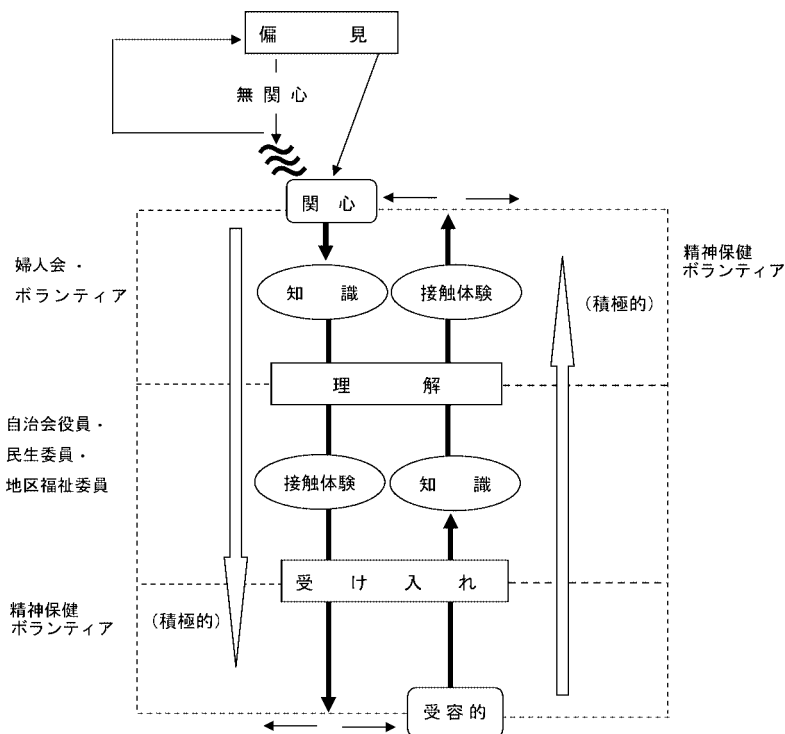


図3 精神障害者の地域生活を支援する人を拡充するためのモデル

もあるだろうし、関心がより一層高まることもあるだろう。

このように、受容的な人に働きかけるという従来の方法とは異なる角度からのアプローチを加えることにより、少しでも多くの人から理解を得られることに役立つと考えている。そして、理解者が増えることは支援者を増やすことにもつながるのではないかと期待している。

Ⅳ おわりに

精神障害者の地域生活を受け入れる人を拡充するための手がかりを探そうとし、1つの例として図3のようなモデルを考えてみた。

しかし、このモデルの場合、元来受容的な人がどのような場面に表れるのかを知ることができれば、働きかけていくことができない。先述の学歴レベルや収入というような属性に關して、もし一致した結果が得られたとしても、どのような人が学歴や収入が高いのか、あるいは低いのかということを外から知ることは難しく、このような属性を目安に働きかけることは困難である。例えば、ピアピンらが調査した献血行動³⁸⁾というような外から見えるものが必要だろう。

Allport は「寛容な人」の一重要要因として共感能力をあげており³⁶⁾、また、共感性と援助行動や愛他性との関連^{39~44)}、共感性と動物飼育経験の関連⁴⁵⁾、動物に対する共感と人に対する共感との関連⁴⁶⁾が報告されている。

私はかつて、動物病院を訪れる飼育者の精神障害者に対する意識を調査し、過去に行われた一般市民の意識調査とを比較して、動物病院を訪れる人々の方が有意に受容的な傾向にあるという結果が得られている⁴⁷⁾。動物飼育経験者を探すことは困難である。しかし、現在動物を飼育している人の中で、動物病院を訪れる人は、「動物病院を訪れる」という見える属性を持つことになる。

また、病院の中には盲導犬育成のための募金を行っているところもあり、このような病院で

は障害者の支援に理解があるのではないだろうか。例えば、このような動物病院に協力を求め、受診に訪れた人に精神障害の知識が得られるような冊子を配布させてもらうということが可能かもしれない。少なくとも従来は知識普及の場とはされてこなかった場ではあるが、わざわざ足を運ぶことなく知識を得てもらう場としての1つの手がかりとなるだろう。

精神障害者が地域生活を送るためには住民の支援が不可欠であり、早急に支援者を拡充する必要に迫られている。今後は、一般市民の精神障害に対する関心を高めることに加え、様々な角度からのアプローチを検討していくことが必要だろう。

謝辞

本研究にあたり、関西福祉科学大学における「こころの健康と福祉を考えるつどい」において、アンケート調査にご協力頂きました参加者の皆様、並びにご指導を賜りました諸先生方に厚く御礼申し上げます。

文 献

- 1) 日本精神保健福祉士協会編集『精神保健福祉士受験ワークブック 2007』中央法規、2006
- 2) 世界保健機関 (WHO) 編、中野善達訳『世界の精神保健』明石書店 2004
- 3) 日本精神科病院協会「精神障害者社会復帰サービスニーズ等調査事業報告書 (http://www.mhlw.go.jp/shingi/2003/11/s_1111-2_a.html)
- 4) Alisky, J. M., Iczkowski, K. A. Barriers to housing for deinstitutionalized psychiatric patients. *Hospital and Community Psychiatry*, 41 (1), 1990, 93-95
- 5) Link, G. B. Mental patient status, work, and income: an examination of the effects of a psychiatric label. *American Sociological Review*, 47, 1982, 202-215
- 6) Link, G. B., Cullen, T. F., Elmer, S., Shrout, P. E. A modified labeling theory approach to mental disorders: an empirical assessment, *American Sociological Review*, 54, 1989, 400-423
- 7) Corrigan, P. W., Penn, D. L. Lessons from social psychology on discrediting psychiatric stigma,

- American Psychologist, 54(9), 1999, 765-776
- 8) 北村俊則「精神疾患を有する人々の社会参加を阻むもの」精神保健研究 44, 1998, 3-4
- 9) Lemkau, P. V. Crocetti, G.M. An urban population's opinion and knowledge about mental illness. American Journal of Psychiatry, 118, 1962, 692-700
- 10) Bentz, W. K., Edgerton, J. W., Kherlopian, M. Perceptions of mental illness among people in a rural area Mental Hygiene, 53, 1969, 459-465
- 11) 全国精神障害者家族会連合会『精神障害者の現状 '97』ぜんかれん保健福祉研究所モノグラフ 22, 1998
- 12) D'Arcy, C., Brockman, J. Changing public recognition of psychiatric symptoms? Blackfoot revisited. Journal of Health and Social Behavior, 17, 1976, 302-310
- 13) Thompson, A. H., Stuart, H., Bland, R. C. et al. Attitudes about schizophrenia from the pilot site of the WPA worldwide campaign against the stigma of schizophrenia, Social Psychiatry and Psychiatric Epidemiology, 37, 2002, 475-482
- 14) Phelan, J. C., Link B. G., Stueve, A., Pescosolido, B. A. Public Conceptions of mental illness in 1950 and 1996: What is mental illness and is it to be feared? Journal of Health and Social Behavior, 41, 2000, 188-207
- 15) 焼山和憲他「精神障害者に対する地域住民の社会的距離に関する研究ー地域ケアを阻む要因分析ー」西南女学院大学紀要 7, 2003, 7-18
- 16) Whatley, C, Social attitudes toward discharged mental patients, Social Problems, 6, 1959, 313-320
- 17) Wolff, G., Pathare, S., Craig, T., et al. Community attitudes to mental illness. British Journal of psychiatry, 168, 1996, 183-190
- 18) 大島 巖、山崎喜比古、中村佐織、小沢 温「日常的な接触体験を有する一般住民の精神障害者観」社会精神医学 12(3), 1989, 286-297
- 19) 岡上和雄、石原邦男「精神障害(者)に対する態度と施策への方向づけー精神障害者の社会復帰・福祉施策形成基盤に関する調査よりー」社会保障研究 21(4), 1986, 373-385
- 20) Cumming, E., Cumming, J. Closed Ranks. An Experiment in mental health education. Cambridge, Harvard University Press, 1957
- 21) Brockington, I. F., Hall, P., Levings, J. et al. The community's tolerance of the mentally ill. British Journal of Psychiatry, 162, 1993, 93-99
- 22) 進藤隆夫「精神障害者に対する住民の意識態度」公衆衛生 32(3), 1968, 46-54
- 23) Ramsey, G. V., Siepp, M. Attitudes and opinions concerning mental illness. Psychiatric Quarterly, 22, 1948, 428-444
- 24) Dohrenwend, B. P., Ching-Shong, E. Social status and attitudes toward psychological disorder: the problem of tolerance of deviance. American Social Review, 32, 1967, 417-433
- 25) 三浦岱栄、笠松 章他「精神障害に対する認識および治療の態度に関する研究(第2報)」精神医学 5(12), 1963, 23-29
- 26) 藤本忠明、小花和昭介「精神障害者に対する偏見の規定要因について」追手門学院大学文学部紀要 1973, 140-151
- 27) 田中悟郎「精神障害者に対する住民意識ー自由回答の分析ー」共生社会学 4, 2004, 31-41
- 28) 大島 巖「精神障害者に対する一般住民の態度と社会的距離尺度ー尺度の妥当性を中心にー」精神保健研究 38, 1992, 25-37
- 29) 障害者基本計画「重点施策実施5か年計画」(新障害者プラン)
- 30) 厚生労働省精神保健福祉対策本部「精神保健福祉の改革ビジョン」2004年9月
- 31) 読売新聞 2006年3月15日
- 32) 大島 巖、中村佐織他「障害者を包み込んだ保健と福祉のコミュニティづくりに関する調査研究ー福祉施設や精神病院の社会化・開放化と周辺住民の受け入れ姿勢ー」『保健と福祉のコミュニティづくりに関する研究』昭和61年度文部省科学研究報告書(園田恭一代表) 1988, 109-237
- 33) 矢島まさえ他「山間地域における精神保健福祉に関する住民意識ー精神障害者と接した体験の有無による比較ー」群馬パース学園短期大学紀要 5(1), 2003, 3-12
- 34) 澤本宗彦、桑原 寛、石井紀男、大田省吾「精神障害者に関する意識調査報告ー民生委員、看護学生、精神保健ボランティアの意識ー」神奈川県精神医学会誌 46, 1996, 49-58
- 35) Thompson, A. H., Stuart, H., Bland, R. C. et al., Attitudes about schizophrenia from the pilot site of the WPA worldwide campaign against the stigma of schizophrenia, Social Psychiatry and Psychiatric Epidemiology, 37, 2002, 475-482
- 36) G. W. オルポート 原谷達夫・野村昭共訳『偏見の心理』培風館 1968

- 37) Merton, R. K. Social ambivalence and other essays. New York, Free Press, 1976
- 38) 松井 豊、浦光 博『人を支える心の科学』誠信書房 1998
- 39) M. H. デイヴィス 菊池章夫訳『共感の社会心理学』川島書店 1999
- 40) Toi, M. & Batson, C. D., More evidence that empathy is a source of altruistic motivation, *Journal of Personality and Social Psychology*, 43, 1982, 281–292
- 41) Eisenberg, N. & Miller, P. A., The relation of empathy to prosocial and related behaviors, *Psychological Bulletin*, 101, 1987, 91–119
- 42) Batson, C. D., Prosocial motivation : Is it every truly altruistic? In L. Berkowitz (Ed.), *Advances in experimental social psychology*, 20, 1987, 65–122
- 43) 桜井茂雄「児童における共感と向社会的行動の関係」*教育心理学研究* 34(4), 1986, 342–346
- 44) 渡辺弥生、衛藤真子「児童の共感性及び他者の統制可能性が向社会的行動に及ぼす影響」*教育心理学研究* 38(2), 1990, 151–156
- 45) 塗師 斌「動物飼育経験と動物に対する好感度が共感性に及ぼす影響」*横浜国立大学教育人間科学部紀要Ⅰ、教育科学* 3, 2000, 1–10
- 46) Paul, E. S. Love of pets and love of people. Podberscek, Paul, Serpell (Ed.) *Companion animals and us*, Cambridge University Press, 2000
- 47) 御前由美子「精神障害者にとっての人的資源を拡充するための研究－動物飼育経験者の精神障害者に対する意識調査－」*関西福祉科学大学紀要* 9, 2005, 223–236

資料 1

ア ン ケ ー ト

関西福祉科学大学大学院で精神障害について学んでいる御前由美子と申します。
精神障害者の地域生活支援の研究のために、以下のアンケートにぜひご協力いただきますようお願いいたします。
なお、無記名で統計的に処理されますので、みなさまにご迷惑をおかけすることは一切ございません。

- [1] 性別 ☐ 男 ☐ 女
- [2] 年齢 () 才
- [3] ご結婚なさっていますか？
☐ はい ☐ いいえ
- [4] お子さんはいらっしゃいますか？
☐ はい → あてはまるものに印をつけて下さい ☐ 1人 ☐ 2人 ☐ 3人以上
☐ いいえ
- [5] 本学の在学学生・卒業生もしくは関係者ですか？
☐ はい ☐ いいえ
- [6] 次のような役割や活動を行っていますか？
☐ はい → あてはまるものすべてに印をつけて下さい ☐ 自治会役員(町会役員) ☐ 民生児童委員 ☐ 地区福祉委員
☐ いいえ ☐ ボランティア ☐ 婦人会活動 ☐ その他()
- [7] 動物が好きですか？
☐ はい → あてはまるものすべてに印をつけて下さい ☐ 犬 ☐ ねこ ☐ 魚類 ☐ 鳥類
☐ いいえ ☐ うさぎ ☐ は虫類 ☐ ねずみ類 ☐ 昆虫類
☐ さる類 ☐ 猛獣類 ☐ その他()
- [8] 動物を飼ったことがありますか？
☐ はい → あてはまるものすべてに印をつけて下さい ☐ 犬 ☐ ねこ ☐ 魚類 ☐ 鳥類
☐ いいえ ☐ うさぎ ☐ は虫類 ☐ ねずみ類 ☐ 昆虫類
☐ さる類 ☐ 猛獣類 ☐ その他()
- [9] 現在、動物を飼っていますか？
☐ はい → あてはまるものすべてに印をつけて下さい ☐ 犬 ☐ ねこ ☐ 魚類 ☐ 鳥類
☐ いいえ ☐ うさぎ ☐ は虫類 ☐ ねずみ類 ☐ 昆虫類
☐ さる類 ☐ 猛獣類 ☐ その他()
- [10] 身近に精神障害者がいますか？
☐ はい ☐ いいえ

次の事例を読んで、お答えください。

❖ ❖ ❖ ❖ ❖ ❖ ❖

統合失調症で精神病院に入院したことのあるAさん(35才、男性、独身)は、病気がよくなったので、主治医の勧めでアパートを借りて生活しようと考え、何軒かの大家さんに当たりましたが、すべて断られてしまいました。たしかにAさんには、気力が続かず、長時間の勤めには出られない後遺症が残っていますし、多少ハキハキしないところもあります。

しかし、短時間の軽作業をするために同じ病気の患者さん達が通う作業所には、毎日行くことができます。それに人柄はまじめでし、買い物や炊事なども一般の人と同じようにできるのです。

アパート入居を断られてAさんは、精神病院に入院していたということで入居できないのは本当にくやしいと思っただけです。

❖ ❖ ❖ ❖ ❖ ❖ ❖

- [11] あなたのとなりにAさんが引っ越してきた場合、どのような近所付き合いをしますか？
もっとも近いものを1つだけ選んで下さい。 ☐ 困っている時はできるだけ手を貸す
☐ 他の人と同じような近所付き合いをする
☐ あまりかわらないようにする
☐ 他の場所に住むように働きかける
☐ その他(具体的に)
- [12] 引っ越してきたAさんが動物好きだった場合、どのような近所付き合いをしますか？
もっとも近いものを1つだけ選んで下さい。 ☐ 困っている時はできるだけ手を貸す
☐ 他の人と同じような近所付き合いをする
☐ あまりかわらないようにする
☐ 他の場所に住むように働きかける

ありがとうございました

資料 2

基 礎 集 計 年 齢 別 N=283

		10代		20代		30代		40代		50代		60代		70代		80代以上		無回答		全体	
		人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
[1]	男	2	40.0	21	33.3	6	42.9	7	30.4	12	29.3	23	28.4	18	46.2	1	50.0	3	20.0	93	32.9
	女	3	60.0	42	66.7	8	57.1	16	69.6	29	70.7	57	70.4	21	53.8	1	50.0	12	80.0	189	66.8
	無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	1.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.4
	全体	5	100.0	63	100.0	14	100.0	23	100.0	41	100.0	81	100.0	39	100.0	2	100.0	15	100.0	283	100.0
[3]	既婚	0	0.0	0	0.0	4	28.6	12	52.2	34	82.9	78	96.3	36	92.3	2	100.0	15	100.0	181	64.0
	未婚	5	100.0	63	100.0	10	71.4	11	47.8	6	14.6	1	1.2	2	5.1	0	0.0	0	0.0	98	34.6
	無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	2.4	2	2.5	1	2.6	0	0.0	0	0.0	4	1.4
	全体	5	100.0	63	100.0	14	100.0	23	100.0	41	100.0	81	100.0	39	100.0	2	100.0	15	100.0	283	100.0
[4]	子どもあり	0	0.0	0	0.0	3	21.4	11	47.8	32	78.0	77	95.1	36	92.3	2	100.0	13	86.7	174	61.5
	子どもなし	5	100.0	61	96.8	11	78.6	12	52.2	9	22.0	3	3.7	3	7.7	0	0.0	1	6.7	105	37.1
	無回答	0	0.0	2	3.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	1.2	0	0.0	0	0.0	1	6.7	4	1.4
	全体	5	100.0	63	100.0	14	100.0	23	100.0	41	100.0	81	100.0	39	100.0	2	100.0	15	100.0	283	100.0
人数	1人	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	18.2	2	6.3	3	3.9	4	11.1	0	0.0	2	15.4	13	7.5
	2人	0	0.0	0	0.0	2	66.7	7	63.6	23	71.9	56	72.7	26	72.2	1	50.0	7	53.8	122	70.1
	3人以上	0	0.0	0	0.0	1	33.3	2	18.2	7	21.9	16	20.8	6	16.7	1	50.0	4	30.8	37	21.3
	無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	2.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	1.1
	全体	0	0.0	0	0.0	3	100.0	11	100.0	32	100.0	77	100.0	36	100.0	2	100.0	13	100.0	174	100.0
[5]	関係者	2	40.0	55	87.3	4	28.6	2	8.7	1	2.4	7	8.6	2	5.1	0	0.0	1	6.7	74	26.1
	非関係者	3	60.0	8	12.7	9	64.3	21	91.3	39	95.1	71	87.7	34	87.2	1	50.0	12	80.0	198	70.0
	無回答	0	0.0	0	0.0	1	7.1	0	0.0	1	2.4	3	3.7	3	7.7	1	50.0	2	13.3	11	3.9
	全体	5	100.0	63	100.0	14	100.0	23	100.0	41	100.0	81	100.0	39	100.0	2	100.0	15	100.0	283	100.0
[6]	役割あり	0	0.0	21	33.3	5	35.7	9	39.1	31	75.6	71	87.7	34	87.2	2	100.0	14	93.3	187	66.1
	役割なし	5	100.0	42	66.7	9	64.3	13	56.5	9	22.0	7	8.6	3	7.7	0	0.0	1	6.7	89	31.4
	無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	4.3	1	2.4	3	3.7	2	5.1	0	0.0	0	0.0	7	2.5
	全体	5	100.0	63	100.0	14	100.0	23	100.0	41	100.0	81	100.0	39	100.0	2	100.0	15	100.0	283	100.0
役割 [複数回答]																					
役割	自治会	0	0.0	0	0.0	2	40.0	1	11.1	3	9.7	17	23.9	9	26.5	1	50.0	1	7.1	34	18.2
	民生委員	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	6.5	5	7.0	7	20.6	0	0.0	2	14.3	16	8.6
	地区福祉委員	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	22.2	16	51.6	52	73.2	18	52.9	2	100.0	10	71.4	100	53.5
	ボランティア	0	0.0	19	90.5	3	60.0	3	33.3	16	51.6	29	40.8	16	47.1	2	100.0	6	42.9	94	50.3
	婦人会	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4	12.9	4	5.6	3	8.8	1	50.0	2	14.3	14	7.5
	その他	0	0.0	1	4.8	1	20.0	4	44.4	0	0.0	9	12.7	6	17.6	0	0.0	0	0.0	21	11.2
	無回答	0	0.0	1	4.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	2.9	0	0.0	0	0.0	2	1.1
	全体	0	0.0	21	100.0	5	100.0	9	100.0	31	100.0	71	100.0	34	100.0	2	100.0	14	100.0	187	100.0
[7]	動物好き	5	100.0	60	95.2	12	85.7	17	73.9	33	80.5	62	76.5	25	64.1	0	0.0	13	86.7	227	80.2
	嫌い	0	0.0	2	3.2	2	14.3	6	26.1	6	14.6	17	21.0	12	30.8	1	50.0	1	6.7	47	16.6
	無回答	0	0.0	1	1.6	0	0.0	0	0.0	2	4.9	2	2.5	2	5.1	1	50.0	1	6.7	9	3.2
	全体	5	100.0	63	100.0	14	100.0	23	100.0	41	100.0	81	100.0	39	100.0	2	100.0	15	100.0	283	100.0
種類 [複数回答]																					
種類	犬	4	80.0	54	85.7	8	66.7	16	94.1	24	72.7	50	80.6	21	84.0	0	0.0	12	92.3	189	83.3
	ねこ	3	60.0	33	52.4	9	75.0	10	58.8	15	45.5	22	35.5	9	36.0	0	0.0	5	38.5	106	46.7
	魚類	2	40.0	16	25.4	2	16.7	4	23.5	8	24.2	24	38.7	10	40.0	0	0.0	5	38.5	71	31.3
	鳥類	3	60.0	16	25.4	3	25.0	3	17.6	4	12.1	18	29.0	7	28.0	0	0.0	4	30.8	58	25.6
	うさぎ	2	40.0	28	44.4	5	41.7	5	29.4	6	18.2	13	21.0	2	8.0	0	0.0	3	23.1	64	28.2
	は虫類	1	20.0	8	12.7	0	0.0	2	11.8	0	0.0	0	0.0	1	4.0	0	0.0	0	0.0	12	5.3
	ねずみ類	1	20.0	14	22.2	1	8.3	2	11.8	1	3.0	1	1.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	20	8.8
	昆虫類	1	20.0	6	9.5	0	0.0	1	5.9	2	6.1	7	11.3	3	12.0	0	0.0	1	7.7	21	9.3
	さる類	1	20.0	13	20.6	5	41.7	0	0.0	1	3.0	4	6.5	0	0.0	0	0.0	1	7.7	25	11.0
	猛獣類	0	0.0	8	12.7	0	0.0	1	5.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	9	4.0
	その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	4.0	0	0.0	0	0.0	1	0.4
	無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	全体	5	100.0	63	100.0	12	100.0	17	100.0	61	100.0	62	100.0	25	100.0	0	0.0	13	100.0	227	100.0

御前由美子：精神障害者の地域生活支援のためのモデル

[8]	飼育経験あり	5	100.0	54	85.7	13	92.9	22	95.7	39	95.1	69	85.2	30	76.9	0	0.0	14	93.3	246	86.9
	飼育経験なし	0	0.0	9	14.3	1	7.1	1	4.3	2	4.9	12	14.8	8	20.5	1	50.0	0	0.0	34	12.0
	無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	2.6	1	50.0	1	6.7	3	1.1
	全体	5	100.0	63	100.0	14	100.0	23	100.0	41	100.0	81	100.0	39	100.0	2	100.0	15	100.0	283	100.0
	種類 [複数回答]																				
種類	犬	3	60.0	33	61.1	4	30.8	19	86.4	29	74.4	57	82.6	26	86.7	0	0.0	10	71.4	181	73.6
	ねこ	2	40.0	12	22.2	4	30.8	8	36.4	19	48.7	20	29.0	9	30.0	0	0.0	5	35.7	79	32.1
	魚類	2	40.0	36	66.7	7	53.8	6	27.3	16	41.0	26	37.7	11	36.7	0	0.0	8	57.1	112	45.5
	鳥類	2	40.0	11	20.4	7	53.8	7	31.8	17	43.6	27	39.1	12	40.0	0	0.0	8	57.1	91	37.0
	うさぎ	0	0.0	6	11.1	5	38.5	1	4.5	10	25.6	17	24.6	6	20.0	0	0.0	2	14.3	47	19.1
	は虫類	0	0.0	8	14.8	1	7.7	3	13.6	1	2.6	0	0.0	1	3.3	0	0.0	0	0.0	14	5.7
	ねずみ類	2	40.0	12	22.2	5	38.5	5	22.7	6	15.4	2	2.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	32	13.0
	昆虫類	3	60.0	16	29.6	2	15.4	7	31.8	9	23.1	14	20.3	4	13.3	0	0.0	3	21.4	58	23.6
	さる類	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	4.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.4
	猛獣類	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	その他	0	0.0	4	7.4	0	0.0	0	0.0	1	2.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	7.1	6	2.4
	無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	1.4	1	3.3	0	0.0	0	0.0	2	0.8
	全体	5	100.0	54	100.0	13	100.0	22	100.0	108	100.0	69	100.0	30	100.0	0	0.0	14	100.0	246	100.0
[9]	現在飼育	2	40.0	32	50.8	5	35.7	10	43.5	18	43.9	31	38.3	12	30.8	0	0.0	6	40.0	116	41.0
	現在非飼育	3	60.0	30	47.6	9	64.3	13	56.5	23	56.1	48	59.3	24	61.5	1	50.0	7	46.7	158	55.8
	無回答	0	0.0	1	1.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	2.5	3	7.7	1	50.0	2	13.3	9	3.2
	全体	5	100.0	63	100.0	14	100.0	23	100.0	41	100.0	81	100.0	39	100.0	2	100.0	15	100.0	283	100.0
	種類 [複数回答]																				
種類	犬	1	50.0	22	68.8	1	20.0	6	60.0	9	50.0	13	41.9	6	50.0	0	0.0	3	50.0	61	52.6
	ねこ	1	50.0	7	21.9	3	60.0	3	30.0	6	33.3	9	29.0	3	25.0	0	0.0	0	0.0	32	27.6
	魚類	0	0.0	6	18.8	1	20.0	0	0.0	4	22.2	10	32.3	4	33.3	0	0.0	4	66.7	29	25.0
	鳥類	0	0.0	1	3.1	0	0.0	0	0.0	1	5.6	2	6.5	1	8.3	0	0.0	1	16.7	6	5.2
	うさぎ	0	0.0	1	3.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.9
	は虫類	0	0.0	1	3.1	0	0.0	0	0.0	1	5.6	0	0.0	1	8.3	0	0.0	0	0.0	3	2.6
	ねずみ類	0	0.0	2	6.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	6.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4	3.4
	昆虫類	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	10.0	1	5.6	3	9.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	5	4.3
	さる類	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	猛獣類	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	5.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.9
	無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	全体	2	100.0	32	100.0	5	100.0	10	100.0	23	100.0	31	100.0	12	100.0	0	0.0	6	100.0	116	100.0
[10]	身近にいる	1	20.0	23	36.5	9	64.3	13	56.5	15	36.6	15	18.5	8	20.5	0	0.0	1	6.7	85	30.0
	身近にいない	4	80.0	38	60.3	4	28.6	10	43.5	22	53.7	60	74.1	27	69.2	1	50.0	12	80.0	178	62.9
	無回答	0	0.0	2	3.2	1	7.1	0	0.0	4	9.8	6	7.4	4	10.3	1	50.0	2	13.3	20	7.1
	全体	5	100.0	63	100.0	14	100.0	23	100.0	41	100.0	81	100.0	39	100.0	2	100.0	15	100.0	283	100.0
	種類 [複数回答]																				
[11]	となりにAさんが引越し																				
	手を貸す	1	20.0	17	27.0	5	35.7	8	34.8	14	34.1	30	37.0	19	48.7	1	50.0	6	40.0	101	35.7
	他の人と同じ	4	80.0	43	68.3	8	57.1	14	60.9	24	58.5	41	50.6	13	33.3	0	0.0	6	40.0	153	54.1
	関わらない	0	0.0	2	3.2	1	7.1	0	0.0	2	4.9	2	2.5	2	5.1	0	0.0	0	0.0	9	3.2
	他の場所へ	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	その他	0	0.0	1	1.6	0	0.0	1	4.3	1	2.4	5	6.2	4	10.3	1	50.0	2	13.3	15	5.3
	無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	3.7	1	2.6	0	0.0	1	6.7	5	1.8
	全体	5	100.0	63	100.0	14	100.0	23	100.0	41	100.0	81	100.0	39	100.0	2	100.0	15	100.0	283	100.0
[12]	Aさんが動物好き																				
	手を貸す	1	20.0	16	25.4	7	50.0	7	30.4	16	39.0	21	25.9	13	33.3	1	50.0	5	33.3	87	30.7
	他の人と同じ	4	80.0	45	71.4	6	42.9	13	56.5	21	51.2	45	55.6	17	43.6	0	0.0	7	46.7	158	55.8
	関わらない	0	0.0	1	1.6	0	0.0	0	0.0	4	9.8	3	3.7	3	7.7	0	0.0	0	0.0	11	3.9
	他の場所へ	0	0.0	0	0.0	1	7.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.4
	その他	0	0.0	1	1.6	0	0.0	2	8.7	0	0.0	7	8.6	3	7.7	0	0.0	2	13.3	15	5.3
	無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	4.3	0	0.0	5	6.2	3	7.7	1	50.0	1	6.7	11	3.9
	全体	5	100.0	63	100.0	14	100.0	23	100.0	41	100.0	81	100.0	39	100.0	2	100.0	15	100.0	283	100.0

